

創刊110周年記念

# 誇れるふるさと

## 24地区リレー

〈vol.13〉

### 〈川上③ 小学校歌〉

川上小(原田孝之校長)は、地区誕生と時を同じく、1989年4月に開校した。校歌は同年11月18日に制定され、12月2日の発表会でお披露目された。作詞は川上小学校、作曲は校歌制定委員会。新しい学校として、これから輝かしい伝統をつくっていくことという教職員の熱い思いが込められている。

# 平成元年制定「新時代の到来」

## 校歌

一 さわやかな 小鳥さえずる朝夕に  
街を遠くに 手をつなぎ  
見つめ寄り添い 学び合う  
今日も明るい 川上っ子  
われらは創る 川上小学校

二 先人の 暮らしは遠く川上に  
緑を窓辺に 手をつなぎ  
歌い遊んで 学び合う  
今日も元気な 川上っ子  
われらは鍛う 川上小学校

三 おおらかな 朝日に映える学舎に  
友を心に 手をつなぎ  
むつみ考え 学び合う  
今日も優しい 川上っ子  
われらは育つ 川上小学校

## 伝統と学校づくりへの指針を示す



校歌発表会で歌う児童(89年12月4日のウベニチから)

同校10周年記念誌「散歩道」によると、歌詞は初代校長の永谷敏正さん、作曲は事務主事だった白木晴雄さんにより原型が作られた。初代教頭

で2代目校長の中尾晃一さんが編曲を加え、校歌制定委員会での検討を経て策定された。

地域の歴史、環境が節々にちりばめられている歌詞には平易な言葉が使われ、曲調も明るく爽やかで、子どもたちになじみやすいというのが特徴の一つ。今年4月に赴任した原田校長は「歴史の古い学校のような堅苦しさ、言葉の難しさが無いので、歌いやすい。平成の時代が始まった年に制定されており、新時代の到来という時代背景を感じさせる校歌だと思つ」と語る。

もう一つの特徴は1〜3番に共通するキーワード「手をつなぎ」と「学び合う」。

「散歩道」の中に、以下のような解説がある。「校風と伝統の基つくりのためにも、生活する子どもたち、教職員、学校を支え見守る家庭と地域社会のすべての者が手をつなぎ、学び合うことを大切にしなければならぬ」。学校づくりの指針を示した校歌であることが、「こころつかえる。今年から朝と昼休み終了の合図として毎日2回、放送で校歌が流れる。気持ち切り替えやすいと、好評だ」という。原田校長は「コロナ禍で合唱する機会も少ないだけに、流れる校歌を耳にするだけで、児童には親しみを持ってほしい」と話す。